

カヤン女性の首輪による身体変工の美醜に関する計量的研究

A quantitative study on body modification (neck ring wear) by Kayan women

下田 敦子¹, 大澤 清二¹

¹大妻女子大学 人間生活文化研究所

Atsuko Shimoda¹ and Seiji Ohsawa¹

¹Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University

12 Sanbancho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：カヤン人，身体変工，首輪，美しさ，計量美学

Key words : Kayan people, Body modification, Brass neck ring or coil, Beauty, Quantitative aesthetics

抄録

ミャンマー最深部に居住するカヤン人（カレン族のサブグループ，カヤン語を母語とする）女性は頸部に真鍮製のコイル状の重く長大な首輪を生涯に亘って装着し続けるという伝統を今もなお継承している。カヤン人の多くが暮らすミャンマー東部のカヤー州ディモンソー地区（T村，S村，R村，P村）においては，全女性人口の10.6%が首輪を装着している（下田，2015）。しかしながら，この奇習の理由ははっきりとせず，定説があるわけでもない。一方で，近代化による急激な生活様式の変化により，この習慣は徐々に消失しつつある。「人は何故，苦痛を伴ってでも身体に装飾を施すのか？」「美を装うために人は身体変工をするのか？」本研究では，この地区において「首輪を装着しているカヤン女性」「首輪を装着していないカヤン女性」「カヤン男性」という3群を設定し，首輪装着についての美醜観について聞き取り調査を行い，主成分分析により探索した。その結果，以下のことが明らかになった。

- 1) 首輪を装着している女性たちは自分たちの身体変工について非常に肯定的であり，美しいと意識している。
- 2) 首輪を装着している女性はモノとしての首輪についての負担感を持っている。

1. 研究の目的と動機

美しさと醜さに関する評価に関しては個人差が大きく，さらには民族差，時代差，性差などの多くのファクターが関与しており，絶対的な尺度を求めることはきわめて難しい。ある人々にとっては最上の美と感じられる対象が，別の人々には醜いと感じられる場合さえ存在する。例えば身体中に文身を施した男性の兵士を美しいとする民族がいる一方で，文身を醜いとする民族もいる。身体の美しさ，素顔の美しさ，化粧の美しさ，服飾の美しさなどに関しても同様であり，評価は極めて相対的である。美学の創始者といわれるプラトン（B.C.427-B.C.347）の言説をはじめとして（原二郎訳，1965）[1]，洋の東西古今を問わず美を求めるのは人間の普遍的，本源的な欲求であると考えられている。と同様に，美を感じ取る人間の側の評価がそもそも非常に相対的であり，主観に依

存するものであることは，近代美学の大成者バウムガルテン（1714–1762）によって美認識あるいは感性の相対性として理解されている。それ故に美あるいは醜さの主観性を科学的な手続きによって解明することの困難さは論をまたない。こうした問題を自覚した上で本研究では試みとして，身体変工あるいは人体変工という行為によって変形された身体に関する美醜の評価尺度に関する問題を立て，これに計量的な視点から接近することとした。ここでは「身体変工という苦痛を伴う美意識を評価する」という観点に焦点を絞って検討する。何故人は肉体の苦痛や生活の不都合を犠牲にして首輪の装着という奇妙な習慣を維持し，また継承してゆくのか，という命題に若干でも接近できればという研究動機から本研究は出発している。

2. 研究対象と調査の背景

ミャンマー最深部のカヤン州 (Kayah State) に 21 世紀の現在でも、今なお長大な首輪や足環を装着したままで生涯を送る人々が居る (写真 1)。こうした人体に加工を加える風習、行為を人類学では身体変工 (宇野, 1997) [2] と言う。割礼、瘢痕、文身、纏足等も身体変工の一種である。この研究で対象としているカヤン人ラフィグループ (以下、カヤンと呼称する) では、概ね 5 歳くらいになると女の子の頸部と膝下に真鍮で作られた首輪、足環を装着させる風習が続いている。女の子の成長に従って首輪と足環が徐々に窮屈になってくると、首と下肢の長さ、太さに合わせてより長く、大型のものに取り替えられる。彼女がやがて成人に達したときは首輪と足環は全体で 5kg 程度の非常に長大で、重いものになる。もし我々が現在この首輪や足環をつけたとしたら、数分で息苦しくなり、労働や日常生活には到底耐えられないと感じるだろう。ところが彼女たちは自分自身の体重のほぼ 10% にも達する重量負荷をまとめて、畑仕事をし、背負子を担いで山中に分け入って山菜採りをし、家畜の世話、薪割り、火おこし、食事の支度、子どもの世話、機織、水汲みなどをこなす。水浴びはもちろん、睡眠時においてさえも首輪や足環を装着したままである。このように彼女たちは身体の一部と化した首輪と足環が何の負担にもなっていないかのように行動している。

では何故カヤン女性は、現代人からすると、一見不合理と思えるような奇習を今なお伝承し続けているのだろうか。こうした身体変工は何故行われ続けているのであろうか。本研究はこのような疑問点を基礎にして、特に美醜に関する評価という観点から計量的な接近を行った。

これまで身体変工に関する研究は、民族学・文化人類学 (宇野 (1997) [2], 山本 (2013) [3], 高谷 (1990) [4], 内堀 (1990) [5]) の分野で行われてきた。生態学分野でも僅かではあるが R.Roaf ら (1961) [6], Chawanaputorn (2007) [7] の報告がある。しかし、従来、首輪装着を含めて、身体変工について美醜の観点から検証した報告は行われたことがなかった。

この問題に接近するために、筆者らは首輪で頸部を固定したカヤン女性のグループと、装着していないカヤン女性のグループ、そして同じ村に住む男性グループの 3 群を設け、彼らの協力の下に首輪に関する美醜に関連すると思われる 30 個の

評価尺度による評価を実施し、得られたデータから首輪装着という身体変工の美醜に関する評価尺度の構造を主成分分析によって探索した。

30 個のインベントリーを設けるのに際しては多数の調査協力者間の討議を経て最小限の項目に限定した。



写真 1. 首輪を装着したカヤン女性

(写真撮影、掲載の許可を得ている。以下同様。)



写真 2. 首輪を装着していないカヤン女性

2.1. 調査地

調査地はカヤンが居住するミャンマー連邦共和国カヤー州ディモソー地区の T 村, S 村, R 村, P 村である (図 1)。

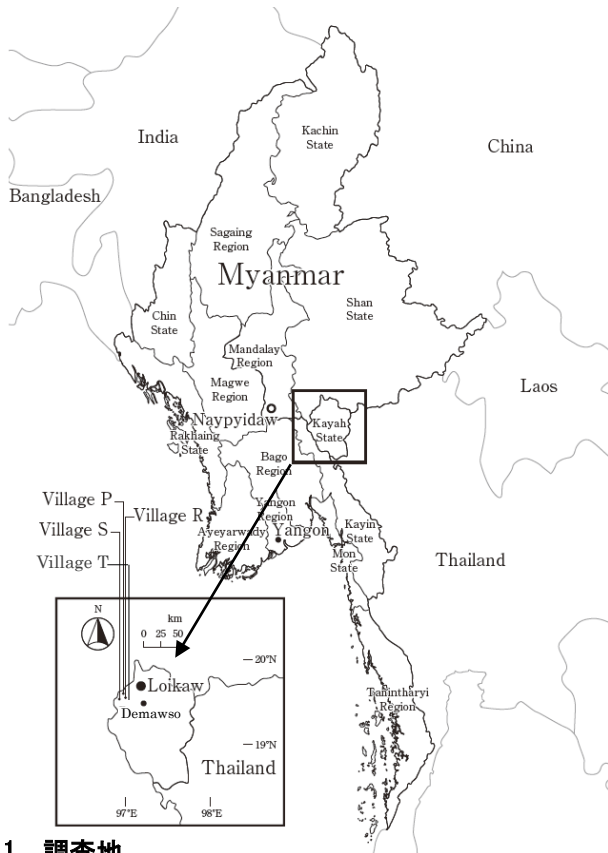


図 1. 調査地

2.2. 調査地へのアクセス

調査地は地図にも示したように新首都ネピドーから山道をカヤー州ロイコー都を経て、ディモソー地区へ、そして T 村, S 村, R 村, P 村へと進んだ同国の最深部に当たる。この地区から数 km 東にはタイとの国境となっているタンルウイン河 (日本名はサルウイン河) の激流が南北に貫流している。タイ側はメーホンソン県である。

筆者らは S 村を調査の本拠地として 2012 年の事前調査と 2013 年, 2014 年の乾季に現地において集中的な人体測定と大規模な聞き取り調査を組織的に行うことが出来た。

2.3. 調査時期・調査対象者

2014 年 2 月 11 日から 15 日に本調査を行った。調査地のカヤン女性のうち首輪を装着する成人女性 31 名 (首輪の装着群), 首輪を装着しない成人女性 170 名, 同じ村に住む成人男性 111 名の合計 312 名を対象としている。

首輪の装着者: ここで参考のために研究対象者

が居住する地区の人口調査を前もって実施している。この調査結果からすると全人口のうち 100 人 (10.6%) が身体変工 (首輪装着) を施している女性であった (下田, 2015) [8]。この中からインタビュー形式による調査に応じられる方々に回答をお願いした。調査に当たっては少なくとも 5 年以上は首輪装着を今なお継続している方々を首輪装着者とし, 調査対象者とした。調査対象者のなかには, 最長期間経験者として, 5 歳で初めて首輪を装着して以来 82 年間装着し続けてきた女性も含まれている。首輪の非装着者: 首輪装着者と同じ村に居住する男性, 女性たちであって, 本調査時において, 首輪を装着した経験が全く無いことを条件としている。調査の実施に当たっては, カヤー州の大臣, 村長, 小学校長などが調査協力を依頼し, また実施に当たっては現地語で小学校の教員 10 名が個別に説明しカヤン語により聞き取り調査を行った。



写真 3. 首輪を装着したカヤン女性への聞き取り調査の様子 (写真撮影, 掲載の許可を得ている。以下同様。)



写真 4. 首輪を装着していないカヤン女性への聞き取り調査の様子



写真5. カヤン男性への聞き取り調査の様子

3. 研究課題

カヤン社会においては、発育期から首輪を装着している女性と、装着していない（した経験がない）女性が共に居住している。彼女達は日常生活に於いては、全く差別はなく労働においても同様の生活をしている。首輪をしているからといって特に何か有利になるわけではなく、また差別を受けることもない。ただ伝統的な習慣としてこの奇妙な習慣が続いている。一方男性がこうした身体変工を行うことは全くなく、女性にのみに見られる。

何故首輪の装着を続けるのか、という質問に対しては、人それぞれの答えが返ってくる。ある女性は「猛獣や周辺の異民族による襲撃から身を守るため」と答え、またある人は「独自の文化を継承するため、装飾のため」と答え、ある人は「タイや国内での出稼ぎによる観光地での現金収入に繋がるため」などというような様ざまな理由を挙げる。そうした中で「美しいから」「立派に見えるから」「誇らしいから」など答える女性も少なくない。ともかくいつの頃からか、ミャンマーのこの秘境に連綿として今なおこの風習が継承されている。

筆者らはこうした一連の調査を行う中で「美しさ」を求めるということが彼女たちの意識に深く根ざしているのではないかという問題意識をもつようになった。そこで本研究では、「首輪装着」という奇妙な習慣を美醜の認識という観点から探求してみようと考えた。実際に身体変工を行っている女性は自分自身の首輪装着をどのように評価を

しているのか。また、同じ村に住む男性や身体変工を行わない女性はどのように評価しているのか。これらの問題をここでは一つの試みとして主成分分析という手法から計量的に把握することを試みた。

4. 調査方法

「首輪装着の美醜に関する聞き取り調査」を実施した。調査に当たっては事前に筆者が村長の立会いの下で、同村の小学校教員10名（全員女性）に研修会を行った。研修後は村長が用意したインフォーマントの家を訪問し、または学校に来てもらい、カヤン語によって1人1時間程度かけて実施された。調査協力に関する了承は事前に本人をはじめ、村長、校長によって得ている。

インタビューにあたってはインタビュアーが首輪を装着している女性の写真を提示しながら30項目（表1）のそれぞれについてカヤン語で「あなたは、首輪（装着）は『美しいと感じますか？』それとも『醜いと感じますか？』『美しい』と感じたら1点、『やや美しい』は2点、『どちらでもない』なら3点、『やや醜い』は4点、『醜い』なら5点と言って下さい。」と質問した。このときに、余り深く考えずに、印象（イメージ）を答えて下さい、と指示を回答者に与えて実施した。

5. データ解析

①ここで解析対象としたデータは首輪装着群（ $n=31$ ）A群、非装着群の女性（ $n=170$ ）B群、男性群（ $n=111$ ）C群である。以下全ての計算は集計ソフト「エクセル統計2012（株式会社社会情報サービス）」で行っている。

②基本統計量（平均値と標準偏差）と相関行列を求めた。

③上記行列に主成分分析を施した。

④固有値 ≥ 1.0 が得られている主成分を考慮しながら、「美醜の評価」に結びつく主成分、変数を吟味考察した。

その主成分を手掛かりとして、表1の全調査項目を用いて、A、B、C群別に主成分得点を求めた。ここで主成分得点はそれぞれの固有値の分散により規準化されているので標準偏差は ± 1.0 となっていない。

表 1. 312 名全員の調査項目の平均値, 不偏分散, 標準偏差

調査項目	平均	不偏分散	標準偏差	調査項目	平均	不偏分散	標準偏差
1. 楽な—苦しい	2.260	1.196	1.094	16. 利口そうな—ばかな	2.849	0.540	0.735
2. 太い—狭い	3.955	0.397	0.630	17. 強い—弱い	3.212	0.791	0.889
3. ゆったりした —窮屈な	2.638	1.216	1.103	18. 根気強い —飽きっぽい	2.522	0.758	0.871
4. 美しい—醜い	2.647	1.579	1.257	19. 従順な—反抗的な	2.702	0.744	0.862
5. 高い—低い	2.410	0.577	0.760	20. 良い—悪い	2.811	1.832	1.354
6. 清潔な—不潔な	3.141	1.093	1.045	21. 神秘的な—現実的な	1.788	0.765	0.875
7. 若い—老いた	3.404	0.724	0.851	22. 実用的な —役に立たない	2.215	0.934	0.967
8. 新しい—古い	3.933	1.889	1.375	23. 便利—不便	2.670	1.431	1.196
9. 軽い—重い	1.795	0.620	0.788	24. 温かい—冷たい	2.875	1.589	1.260
10. 好き—嫌い	3.122	2.184	1.478	25. 明るい—暗い	3.157	1.181	1.087
11. 親しみのある —親しみのない	1.894	0.892	0.945	26. 静かな—うるさい	3.234	0.887	0.942
12. 長い—短い	1.888	0.331	0.576	27. 進んだ (都会的な) —遅れた	4.574	0.580	0.761
13. 女性らしい —女性らしいない	1.821	1.048	1.024	28. 誇らしい —恥ずかしい	2.250	1.249	1.118
14. 伝統的な—近代的な	1.340	0.489	0.699	29. 偉そうに見える —下等に見える	2.231	0.976	0.988
15. 高価な —安っぽい	3.038	1.175	1.084	30. 安全な —安全でない	2.606	1.011	1.006

6. 結果と考察

表 1 は全ての調査対象者のデータを用いた計算結果 (平均値, 不偏分散, 標準偏差) である。

これらの 30 項目間 ${}_{30}C_2$ の相関行列から求めた主成分分析結果 (主成分の抽出結果) が表 2 である。

ここでは主成分の固有値 1.0 以上が 9 個抽出されている。第 1, 第 2 主成分の固有値はそれぞれ 5.096, 2.338 である。

これらの主成分の因子負荷量を示したものが表 3 である。第 1 主成分に高い因子負荷量を示した変数は美醜に相関する変数が多数含まれている。すなわち, 「美しい (醜い)」の 0.561 をはじめと

して, 「清潔 (不潔)」0.622, 「好き (嫌い)」0.633, 「良い (悪い)」0.678, 「明るい (暗い)」0.534, 「誇らしい (恥ずかしい)」0.565, 「女性らしい (女性らしくない)」0.516 などである。

次いで第 2 主成分には「長い (短い)」0.553, 「静かな (うるさい)」-0.583, 「軽い (重い)」0.418, 「従順な (反抗的な)」0.431 などの変数が因子高い負荷量を示していた。これらの 2 つの主成分で 30 変数のもつ全情報の 24.78% を占めていた。この因子回収率は大きいとはいえないが, 本研究の主目的である首輪装着に対する美意識の構造を明らかにするためには, 直接深く関係する主成分であると解釈した。

さらに美醜に関する情報を集約的に抽出するために、より節約的な相関行列を求めた。このために、これらの2つの主成分のどちらにおいても因子負荷量が0.400以下の変数を解析対象から除いて、残る18個の $18C_2$ 相関行列によって改めて主成分分析を施した。

その結果表4に示した結果が得られた。ここで固有値1.0以上の5つの主成分が得られた。第1主成分は固有値4.414、第2主成分は固有値2.061で、この2つの主成分によって全情報の35.97%をカバーしていた。そこで本研究の主目的である「美醜」意識に関する主成分を解釈すると、表5に示したように、第1主成分は美醜とその周辺的美醜関連の変数である。「美しい(醜い)」の因子負荷量0.550をはじめとして、「清潔(不潔)」0.639、「好き(嫌い)」0.636、「良い(悪い)」0.671、「明るい(暗い)」0.558、「誇らしい(恥ずかしい)」0.620、「偉そうに見える(下等に見える)」0.512などの変数群からなる主成分である。この主成分はいわば、首輪装着に対する美的感情の主成分であると解釈できる。さらに第2主成分は「軽い(重い)」0.466、「長い(短い)」0.616、といった首輪の長さや重さなどに対する評価、さらに「静かな(うるさい)」-0.644(音に対する評価)、などの首輪装着に於ける首輪自体のモノに対する評価の主成分であった。以上の解析結果から、第1主成分を美醜の評価に関連する因子、第2主成分を首輪の物理的なモノに対する評価の因子、と解釈した。

そしてこの2主成分の関係は因子負荷量からみると第1主成分の美しいという評価と第2主成分のモノとしての負担感とも言いえる因子との関係は対立的な関係になっているということである。

表2. 30個の調査項目の主成分分析結果

主成分	固有値	寄与率 (%)	累積寄与率 (%)
1	5.096	16.990	16.99
2	2.338	7.79	24.78
3	1.725	5.75	30.53
4	1.561	5.20	35.73
5	1.341	4.47	40.20
6	1.238	4.13	44.33
7	1.111	3.70	48.03
8	1.056	3.52	51.55
9	1.029	3.43	54.98
10	0.977	3.26	58.24
11	0.934	3.11	61.35
12	0.929	3.10	64.45
13	0.878	2.93	67.38
14	0.855	2.85	70.23
15	0.784	2.61	72.84
16	0.737	2.46	75.30
17	0.718	2.39	77.69
18	0.702	2.34	80.03
19	0.679	2.26	82.29
20	0.636	2.12	84.41
21	0.619	2.06	86.47
22	0.556	1.85	88.33
23	0.538	1.79	90.12
24	0.528	1.76	91.88
25	0.492	1.64	93.52
26	0.462	1.54	95.06
27	0.432	1.44	96.50
28	0.387	1.29	97.79
29	0.349	1.16	98.95
30	0.315	1.05	100.00

表4. 18個の調査項目の主成分分析結果

主成分	固有値	寄与率 (%)	累積寄与率 (%)
1	4.414	24.52	24.52
2	2.061	11.45	35.97
3	1.326	7.37	43.34
4	1.063	5.90	49.24
5	1.014	5.63	54.87
6	0.911	5.06	59.93
7	0.840	4.67	64.60
8	0.768	4.26	68.86
9	0.745	4.14	73.00
10	0.719	3.99	77.00
11	0.658	3.66	80.65
12	0.616	3.42	84.08
13	0.597	3.32	87.39
14	0.576	3.20	90.59
15	0.493	2.74	93.33
16	0.434	2.41	95.74
17	0.397	2.20	97.94
18	0.370	2.06	100.00

表 3. 30 個の調査項目の主成分分析結果 (30 主成分のうち上位 10 まで)

	主成分1	主成分2	主成分3	主成分4	主成分5	主成分6	主成分7	主成分8	主成分9	主成分10
1. 楽な—苦しい	-0.429	0.297	-0.093	0.201	0.333	0.278	0.029	0.010	-0.072	0.021
2. 太い—狭い	0.025	-0.207	0.124	-0.284	0.395	0.137	-0.034	0.240	0.491	0.119
3. ゆったりした—窮屈な	0.185	0.375	-0.109	-0.210	-0.333	-0.487	-0.056	-0.168	0.130	-0.180
4. 美しい—醜い	0.561	-0.263	0.116	0.171	-0.154	0.113	0.182	-0.012	-0.013	-0.032
5. 高い—低い	0.194	-0.053	0.012	0.275	0.242	-0.171	0.370	0.436	-0.362	-0.264
6. 清潔な—不潔な	0.622	0.131	0.125	-0.102	-0.048	-0.059	0.162	-0.212	0.194	0.126
7. 若い—老いた	0.327	-0.163	0.234	0.331	-0.276	-0.046	-0.168	0.179	0.036	0.074
8. 新しい—古い	0.438	0.315	0.369	0.162	0.070	0.125	0.007	-0.239	0.033	0.052
9. 軽い—重い	-0.410	0.418	-0.221	0.078	0.130	0.241	-0.019	-0.028	0.058	-0.009
10. 好き—嫌い	0.633	-0.184	0.271	0.074	-0.183	0.145	0.083	-0.081	-0.047	0.121
11. 親しみのある—親しみのない	0.366	0.146	-0.074	0.276	-0.372	0.180	0.282	0.035	-0.007	0.011
12. 長い—短い	0.092	0.553	-0.054	0.191	0.227	0.079	0.128	-0.365	-0.062	-0.073
13. 女性らしい—女性らしくない	0.516	0.169	-0.467	0.130	-0.026	0.072	0.138	0.059	-0.009	0.238
14. 伝統的な—近代的な	0.306	0.035	-0.330	-0.173	-0.102	0.218	0.317	0.221	0.150	0.431
15. 高価な—安っぽい	0.469	-0.194	-0.267	-0.119	0.304	-0.022	-0.085	0.107	0.045	-0.027
16. 利口そうな—馬鹿な	0.456	0.324	0.301	0.067	0.184	-0.240	-0.116	0.220	0.134	0.071
17. 強い—弱い	-0.233	0.205	0.121	-0.454	-0.264	0.068	-0.132	0.352	-0.369	0.108
18. 根気強い—飽きっぽい	0.356	-0.107	0.072	-0.159	0.289	-0.287	0.467	-0.140	-0.185	-0.139
19. 従順な—反抗的な	0.328	0.431	0.327	0.042	0.223	-0.156	-0.105	0.327	-0.055	0.089
20. 良い—悪い	0.678	-0.223	-0.077	-0.076	0.082	0.114	-0.064	0.045	-0.172	0.004
21. 神秘的な—現実的な	-0.121	0.344	0.074	0.071	-0.408	0.238	0.141	0.284	0.234	-0.376
22. 実用的な—役に立たない	0.509	0.355	0.063	-0.333	0.082	0.018	0.054	-0.011	0.015	0.035
23. 便利—不便	-0.462	0.112	0.315	0.007	0.073	0.148	0.252	0.120	0.176	-0.233
24. 温かい—冷たい	0.245	-0.359	-0.264	0.432	0.078	0.020	-0.320	-0.002	-0.113	-0.067
25. 明るい—暗い	0.534	0.251	-0.181	0.003	-0.073	-0.239	-0.275	0.104	0.053	-0.122
26. 静かな—うるさい	-0.013	-0.583	0.117	-0.336	-0.045	-0.049	0.184	-0.072	0.149	-0.219
27. 進んだ(都会的な)—遅れた	0.219	-0.145	0.626	0.154	0.067	0.257	-0.174	-0.095	-0.012	0.033
28. 誇らしい—恥ずかしい	0.565	0.199	-0.066	-0.373	0.065	0.293	-0.206	-0.079	-0.157	-0.272
29. 偉そうに見える—下等に見える	0.498	-0.050	-0.134	-0.248	0.008	0.443	-0.113	-0.004	-0.101	-0.324
30. 安全な—安全でない	0.377	-0.048	-0.278	0.276	0.102	-0.044	-0.065	0.112	0.426	-0.288

表 5. 18 個の調査項目の主成分分析結果 (18 主成分のうち上位 10 まで)

	主成分1	主成分2	主成分3	主成分4	主成分5	主成分6	主成分7	主成分8	主成分9	主成分10
1. 楽な—苦しい	-0.419	0.415	0.196	-0.014	0.145	-0.170	0.365	0.462	0.123	-0.154
4. 美しい—醜い	0.550	-0.294	-0.190	-0.145	0.408	-0.214	0.279	0.204	-0.064	0.146
6. 清潔な—不潔な	0.639	0.063	-0.218	0.006	0.162	0.123	0.086	0.175	-0.135	-0.346
8. 新しい—古い	0.457	0.351	-0.244	0.087	0.287	0.364	-0.107	-0.156	-0.239	0.289
9. 軽い—重い	-0.401	0.466	0.330	0.068	0.098	0.113	0.098	-0.032	0.061	0.190
10. 好き—嫌い	0.636	-0.221	-0.299	-0.035	0.328	-0.045	0.078	-0.067	0.234	-0.049
12. 長い—短い	0.105	0.616	0.068	0.104	0.365	0.140	-0.314	0.241	0.280	0.169
13. 女性らしい—女性らしくない	0.499	0.153	0.401	-0.392	0.071	0.109	0.197	-0.121	-0.222	-0.068
15. 高価な—安っぽい	0.462	-0.176	0.328	-0.116	-0.333	0.402	0.305	0.178	0.149	0.229
16. 利口そうな—馬鹿な	0.480	0.354	-0.399	-0.074	-0.340	-0.143	0.130	0.112	0.007	0.143
19. 従順な—反抗的な	0.350	0.474	-0.338	0.032	-0.371	-0.278	0.043	-0.062	0.215	0.100
20. 良い—悪い	0.671	-0.236	0.154	0.048	-0.038	0.061	0.094	-0.165	0.351	0.179
22. 実用的な—役に立たない	0.557	0.272	0.014	0.204	-0.145	0.358	0.008	-0.051	0.109	-0.484
23. 便利—不便	-0.454	0.142	-0.347	0.445	-0.072	0.230	0.389	0.012	-0.263	0.085
25. 明るい—暗い	0.558	0.188	0.101	-0.243	-0.236	-0.075	-0.317	0.312	-0.376	0.085
26. 静かな—うるさい	-0.028	-0.644	-0.102	0.272	-0.111	0.222	-0.217	0.448	0.052	0.079
28. 誇らしい—恥ずかしい	0.620	0.112	0.313	0.442	-0.029	-0.256	-0.142	0.006	-0.001	-0.107
29. 偉そうに見える—下等に見える	0.512	-0.108	0.369	0.523	0.052	-0.278	0.132	-0.057	-0.218	0.133

これらの2つの主成分の因子負荷量を2次元の直交空間上で布置すると図2となる。これをみると「美醜」に最も隣接する変数は「好き(嫌い)」「良い(悪い)」「高価な(安っぽい)」「偉そうに見える(下等に見える)」などの変数である。カヤンの村で女性たちが行っている首輪装着を日常的に行い、またこれを隣人として観察してきた人々のたちの首輪装着という事態に対する意識がこれらの変数によって表現されていると推測される。すなわち、首輪装着に関する美醜イメージを評価することは、これらの2つの主成分によって可能

であり、「美しい(醜い)」という変数に伴って「良い(悪い)」「好き(嫌い)」「高価な(安っぽい)」「偉そうに見える(下等に見える)」などの変数群が情報空間を同じくする美醜意識であると解釈できる。

人々は首輪装着に対して、装着している女性はもとより、周囲の男女も首輪を「美しい」と感じていると同時に、「良い」「好き」「高価に見える」「偉そうに見える」という意味をも共有していると言い得るのである。

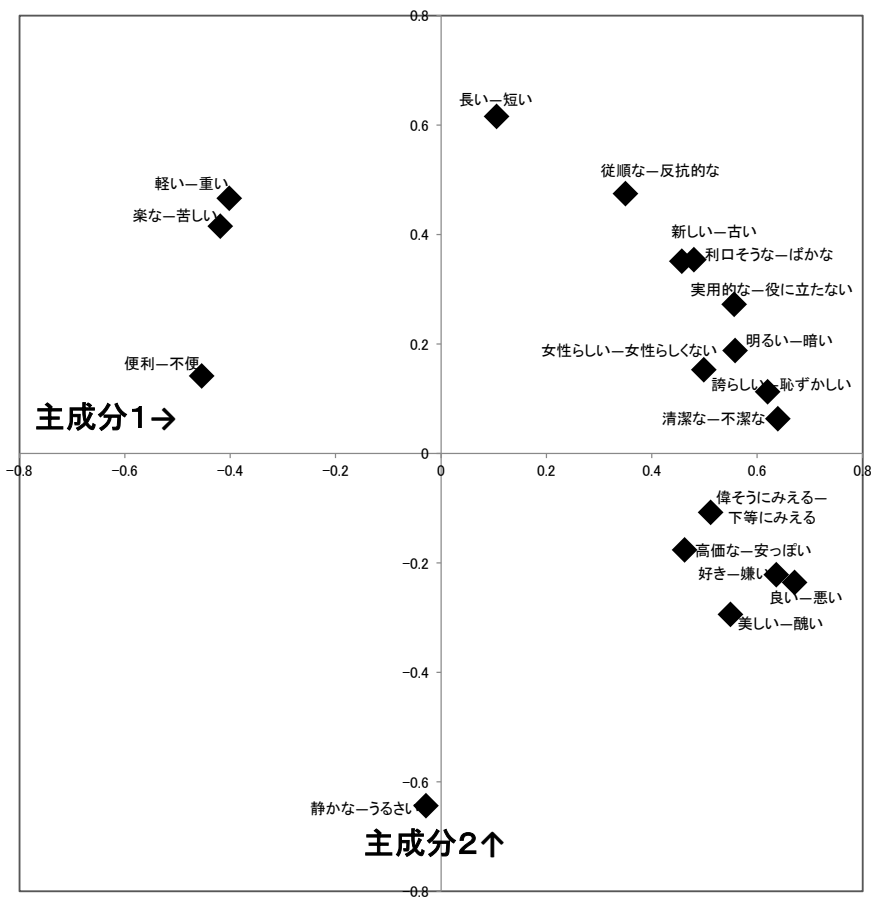


図2. 第1主成分と第2主成分の因子負荷量による2次元グラフ

表6. 対象群別、第1主成分と第2主成分の因子負荷量の平均値、標準偏差

		N		主成分1	主成分2
女性 (首輪装着者)	(A)	31	平均	-0.963	0.597
			標準偏差	2.129	1.561
女性 (首輪非装着者)	(B)	170	平均	0.051	-0.148
			標準偏差	2.036	1.531
男性	(C)	111	平均	0.192	0.060
			標準偏差	2.138	1.193

一主成分得点からみた首輪装着に対する美醜因子の3群間の比較一

ここで、実際に首輪を装着している女性 (A)、装着していない女性 (B)、そして同じ地区に生活している男性 (C) の3群を比較して、その美醜に関する評価の違いを探求してみる。

そこで、前述の第1, 第2主成分より個人ごとの主成分得点を計算するために、前記の主成分を用いて主成分得点計数を計算し、さらにもとの回答データを外挿して主成分得点を求めた。

次いでこれらの主成分得点の3群の平均値、標準偏差を求めた。この結果(表6)によって、首輪を装着している女性、首輪を装着しない女性、同村の男性の3群間の第1, 第2主成分得点の比較を行った。

表6に見られるように、第1主成分得点によれば、首輪を装着している女性の美醜因子の得点は平均値 -0.963 、標準偏差 2.129 であって、他の2群つまり首輪を装着していない女性 0.051 、同村の男性 0.192 と比較して著しく低い。首輪を装着している女性群と他の群間との差は統計的に有意(危険率5%)である。しかし首輪を装着しない男性と女性の群間には有意差を検出しない。つまり首輪を装着している女性は多変量空間に於いて首輪を装着していない男女に比して「(自分たちの)首輪に対して強い美を感じている」というるのである。

第2主成分得点においては、モノとしての首輪に対するイメージの因子得点は首輪を装着している女性は 0.597 ± 1.561 であり首輪装着に関してモノとしての負担感を感じている。一方、首輪を装着していない女性は -0.148 ± 1.531 、男性は 0.060 ± 1.193 であって、これら2群に対して前者は統計的に有意に得点が高い(危険率5%)。しかし第1主成分と同じく首輪を装着していない男女間については、有意差は検出されない。

当然のことであるが、首輪装着をしていない人々のイメージは実際に装着している場合よりは軽度を感じているようである、と解釈できよう。この2つの主成分の関係は因子負荷量からみた時と同じように第1主成分の美醜因子得点と第2主成分のモノとしての負担感の因子得点とは3群間で逆になっているのである。つまり、首輪装着群は首輪の装着に対して美を強く感じているのと同時に、首輪に対するモノとしての負担感を感じており、この評価の傾向は他の2群に対して有意に

強いといいうるのである。

引用文献

- [1] モンテーニュ M, エッセー I (原二郎訳), 岩波文庫, 1965, 115.
- [2] 宇野公一郎, 身体変工の文化, 体育の科学, 1997, 47 (7), 494-499.
- [3] 山本芳美, 身体変工—身体観の博物誌, フォーラム, 2013, 10, 113-126.
- [4] 高谷紀夫, 「身体変工」『東南アジア・オセアニアにおける諸民族文化のデータベースの作成と分析』大林太良・杉田繁治・秋道智彌(編), 国立民族学博物館研究報告別冊, 1990, 11, 87-91.
- [5] 内堀基光, 「首狩りと身体変工の相関関係」『東南アジア・オセアニアにおける諸民族文化のデータベースの作成と分析』大林太良・杉田繁治・秋道智彌(編), 国立民族学博物館研究報告別冊, 1990, 11, 183-186.
- [6] Roaf, R., Giraffe-Necked Woman, The Journal of Bone and Joint Surgery, 1961, 43B (1), 114-115.
- [7] Chawanaputorn D, Patanaporn V, Malikaew P, Khongkhunthian P, Reichart PA., Facial and dental characteristics of Padaung women (long-neck Karen) wearing brass neck coils in Mae Hong Son Province, Thailand, Am J Orthod Dentofacial Orthop, 2007, 131(5), 639-45.
- [8] 下田敦子, カヤン女性の身体変工・装飾と価値体系, 家政教育社, 2015, 10.

謝辞

この調査を開始した 2012 年の時点では、外国人研究者がミャンマーにおいてフィールド調査を実施するのは極めて困難であった。当時は国際機関であっても現地調査を行うことはまず不可能であった。ミャンマー国内には外国の報道機関は存在せず、特派員もおけなかった。外国人研究者が調査目的で入国するのは困難であった。従って僅かに漏れてくる情報を手掛かりにしてミャンマーの国内情勢を想像するしかなかった。しかし筆者らは数々の僥倖に恵まれてカヤー州の高官に接触することができ、やがて州首相から公式の 10 年間に及ぶ調査許可を得ることができた。このために現職の州の担当大臣が調査地まで誘導を買って出してくれ、優秀な公立学校の女性教員たちを選抜していただくという特別の配慮を受けた。村々では暖かい歓迎を受け、全面的な協力を得ることができた。



本研究を遂行する上で以下の方々に深甚な謝意を表します。

カヤー州政府 U Khin Maung Oo 首相 (調査当時)
カヤー州政府 U Saw Hu Hu 電力担当大臣 (調査当時)
カヤー州政府 U Kyaw Nyein デイモソー地区教育事務所補佐官
ミャンマー連邦共和国教育省 U Than Naing 副部長 (調査当時)
Daw Bel Thar 校長
Daw Aye Aye Thin 先生
Daw Ree Myar 先生
S 村の村長, R 村の村長, P 村の村長, T 村の村長
Daw Palyar Myar 先生
Daw Mu Lone 先生
Daw Naw Taree Dar Htoo 先生
Daw Victoria 先生
Daw Naw Aye Aye Naing 先生
Daw Shwe Zar 先生
U Saw Richard 先生
Daw May Vee 先生
Daw Law Rar Nwet 先生
Daw Naw Lay Lay 先生
U Nay Myo Lwin 先生
Daw Htaik Htaik Aung 先生
U Myo Myint Zaw 氏

Abstract

Some Kayan women (a subgroup of the Karen People with Kayan as their native language), living in the most remote parts of Myanmar, continue the tradition of wearing very long and heavy brass coil neck rings throughout their lives. 10.6% of the female population wear neck rings in eastern Myanmar's Kayah State, Demoso Township (T village, S village, R village, P village), where many Kayan people live (Shimoda, 2015). However, there is no clear or accepted explanation for this rare custom, and with the rapid changes to lifestyle due to modernization, this tradition is steadily disappearing. "Why do people ornament themselves even though it is painful?" "Why do people modify their body to make themselves beautiful?"— this research investigates these questions using principal component analysis on the results of an oral survey regarding the visual appeal of neck ring wear, dividing the region's people into three groups: 'neck ring-wearing women', 'non-wearing women', and 'Kayan men'. The results showed two things clearly. 1) Neck ring-wearing women are approve strongly of their own body modification and think it beautiful. 2) Neck ring-wearing women feel the neck rings are burdensome objects. They consider the rings to be heavy or uncomfortable.

(受付日：2017年7月23日，受理日：2017年9月1日)

下田 敦子（しもだ あつこ）

現職：大妻女子大学 人間生活文化研究所 専任講師

専門：民族服飾学，生活技術論

博士（生活科学）

フィールドは，タイ北部からミャンマー東部にかけての少数民族が暮らす山岳地域。

主な著書：

無文字社会における染織技術の伝承—タイ北部山岳民族カレン人集落における16年間フィールドサーベイの記録から—（下田敦子，家政教育社）

カヤン女性の身体変工・装飾と価値体系（下田敦子，家政教育社）